

秩父日記

五止





5500

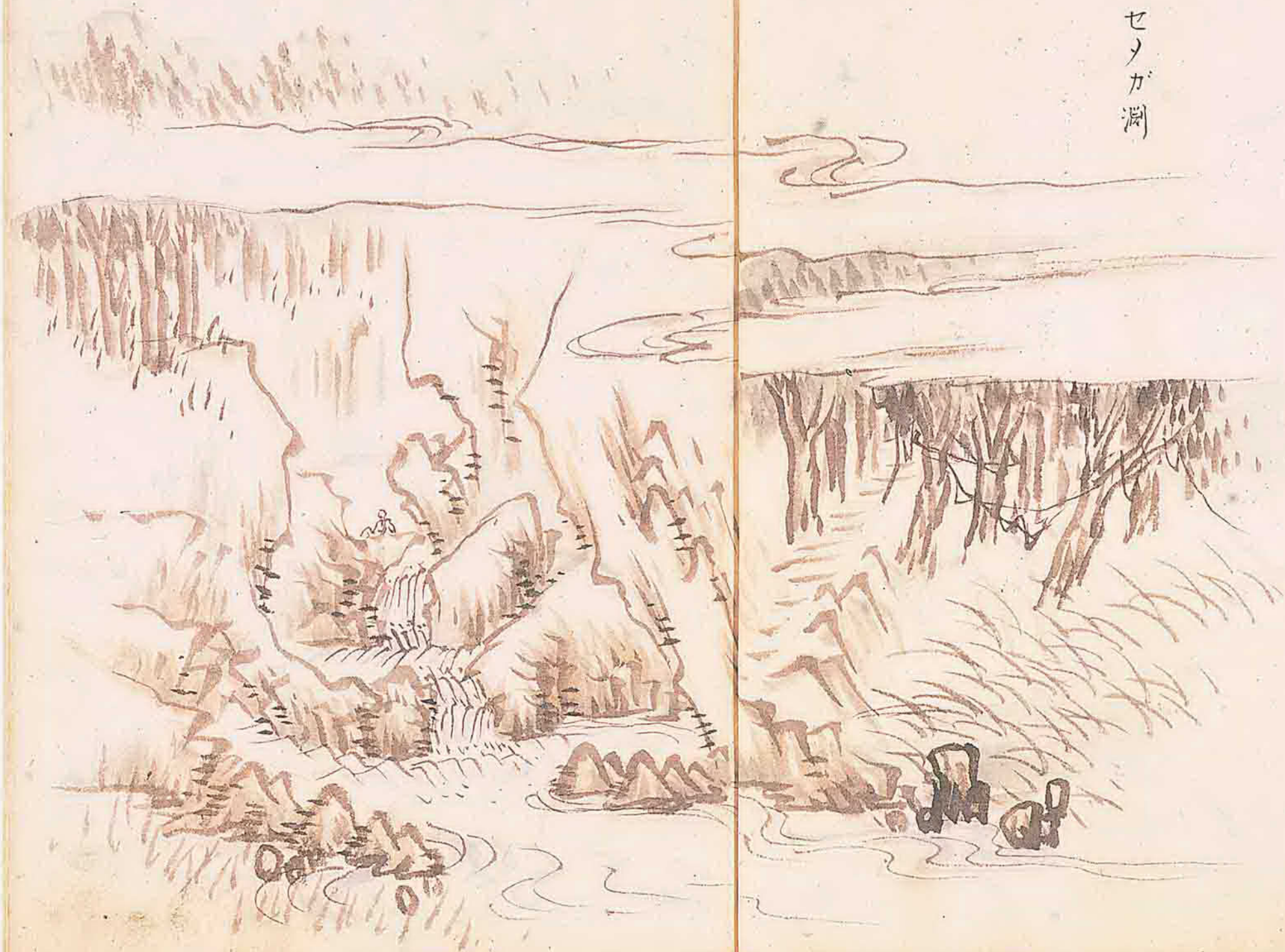
あやめくは

五月朔日はきつめて起きて中三山はきき
ゆりーとあり松林系のもうーとくひのひま
しーとありゆりーと縁所のもうーとくひのひま
もろくおひまのきゆ紫ききとふらるるあやめく
とゆりーとありおひまのききとふらるるあやめく
のりあやめくとふらるるあやめくとふらるるあやめく
けきゆりーとふらるるあやめく

峰ニハニ山知ききとふらるるあやめくとふらるるあやめく
暁のきりのきりーとふらるるあやめくとふらるるあやめく
きりーとふらるるあやめく

のりくさのこゝろにふしのふしを
 みる

セノガ淵



暖物なり藤の香りの花の梢には初るるも水の
たゞの空のこころはとてあつたてまつる

二 白 為 子 居 乃 如 終 一 幸 凡 一 一 一

之白而
此布以上
中子
吹り
て
一
層
を
の
り
を
及
何
れ
と
き
て
の
ま
り
に

何れも其の如く

男 加賀守あるより、あきなりとせむとわら

又、この頃、公卿の間に、

とわのひちちぬ 万んこけり魚子書おのふし大文

の里より送るすゝめを電報に

ゆかりに夕日の多岐深草を新緑とて見た夏の村山

夕つく白ちゆさし河川の激の音なり雲の音

婆池

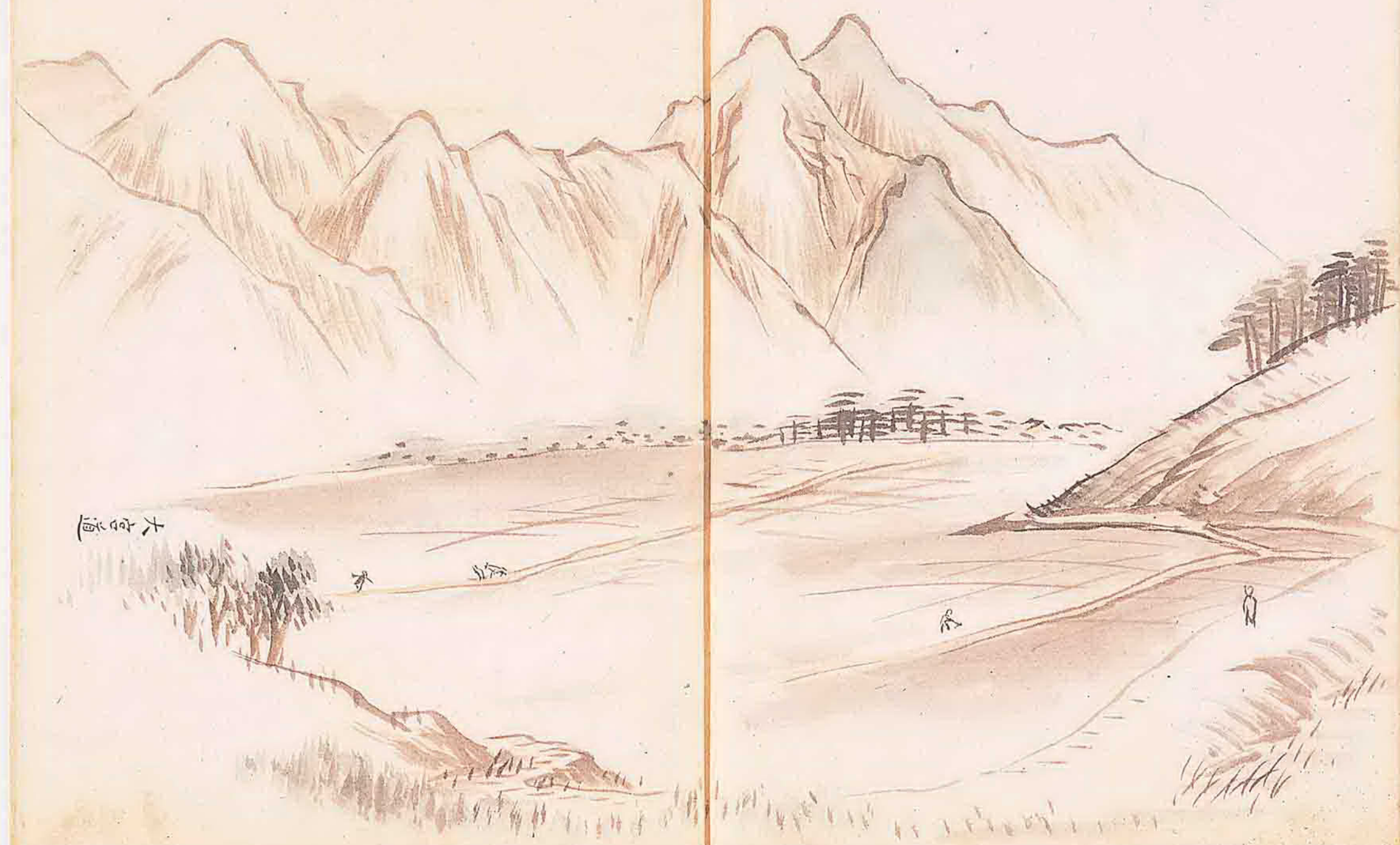


武甲山

葵之原

二子山

大田道



大野峠
 牛小
 大野峠



大野峠

牛小

大野峠

町へ大野とつた村とすれど平村の山と山口氏
 分るく宿はあゝ〜ウ〜あゝ

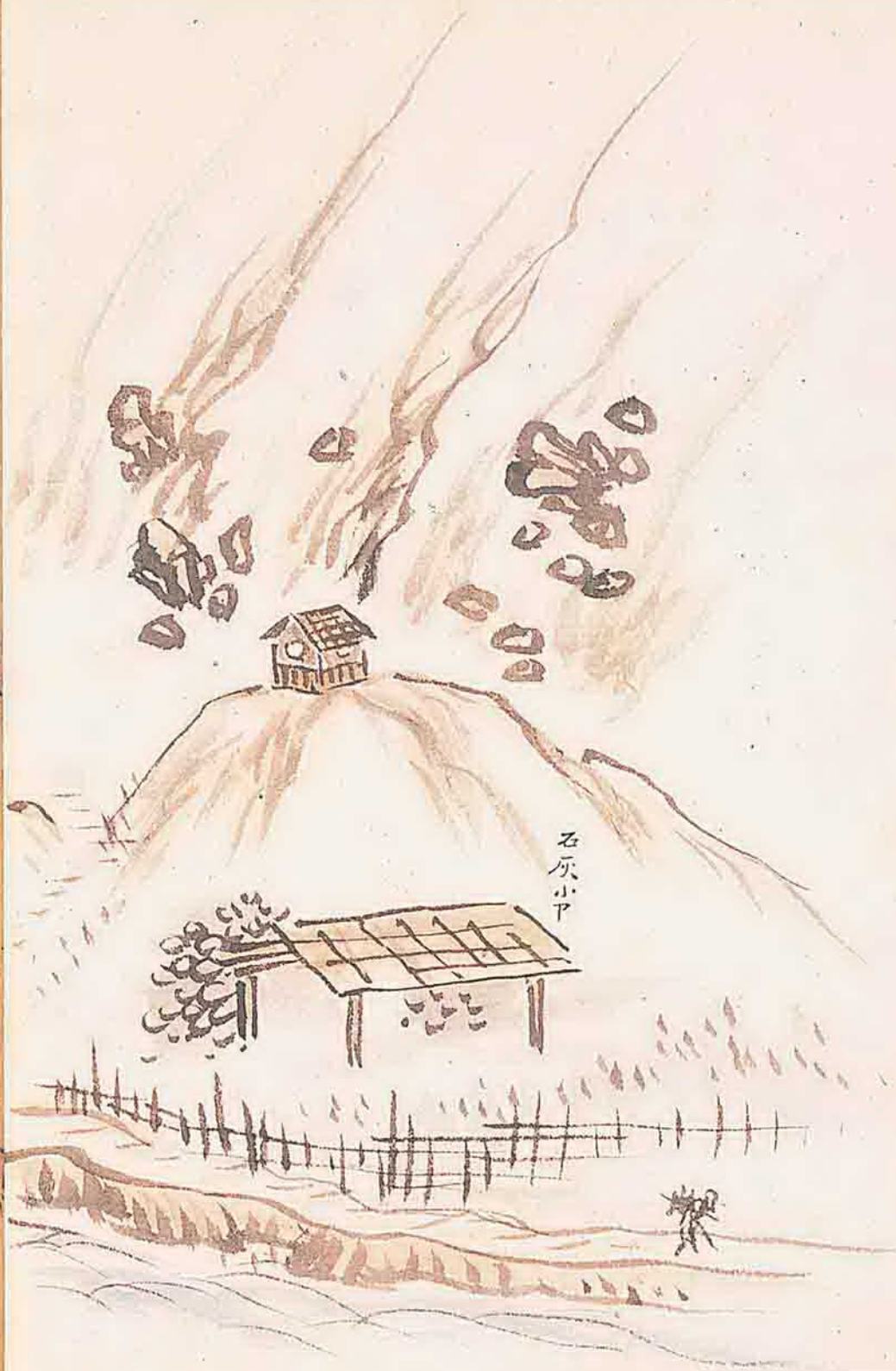
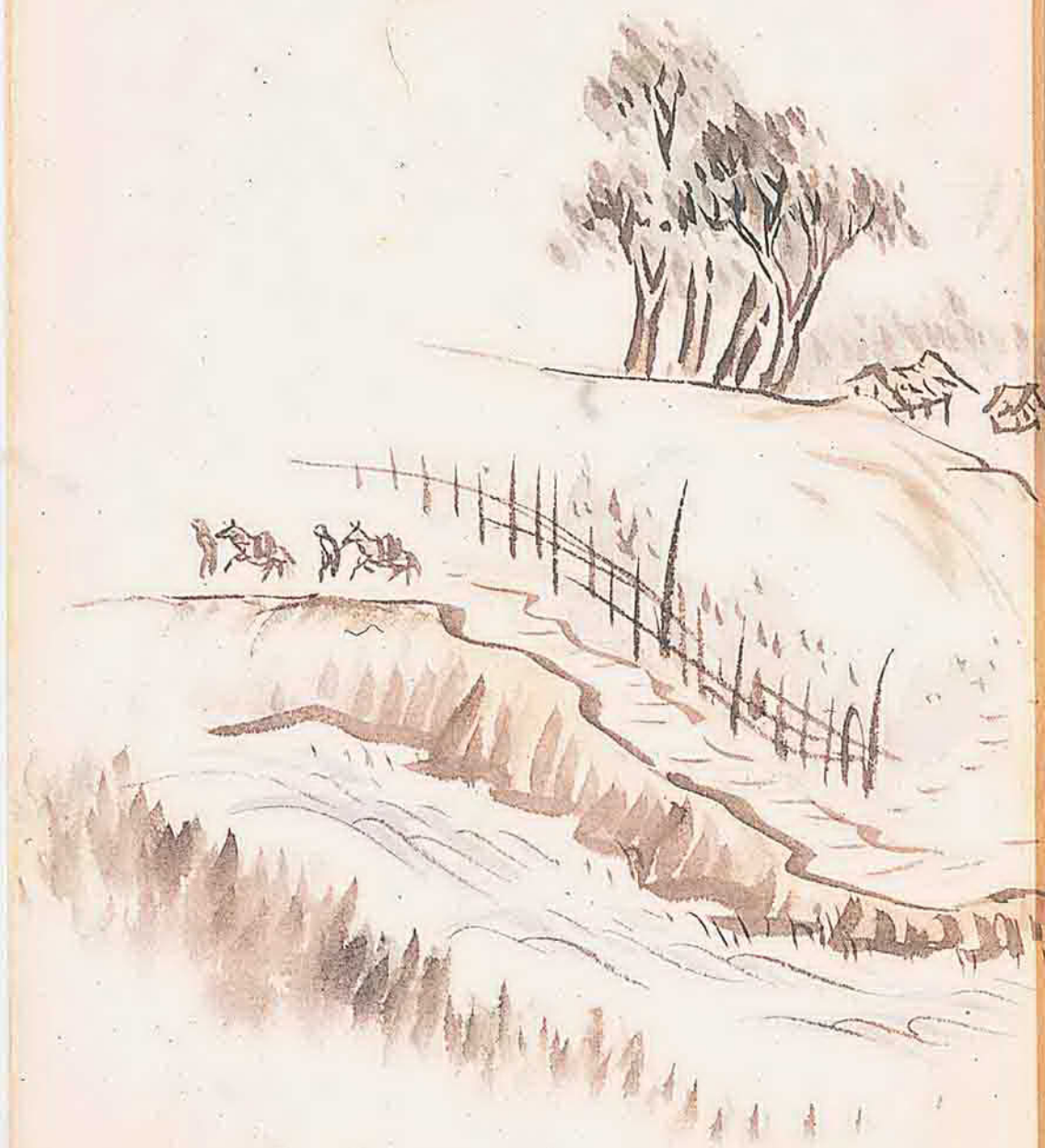
変り夕風

七日を波山口氏よりしたのをあき〜鈴形の家を
 いとんとあふ山をいそぎしとつり道の佐古寺村を
 やあ〜石灰谷や〜あや〜山のあや〜あや〜あや〜
 ぶ井のよ〜あや〜あや〜あや〜あや〜あや〜
 〜あや〜あや〜あや〜あや〜あや〜あや〜
 あや〜あや〜あや〜あや〜あや〜あや〜

け〜あや〜あや〜あや〜あや〜あや〜

平村



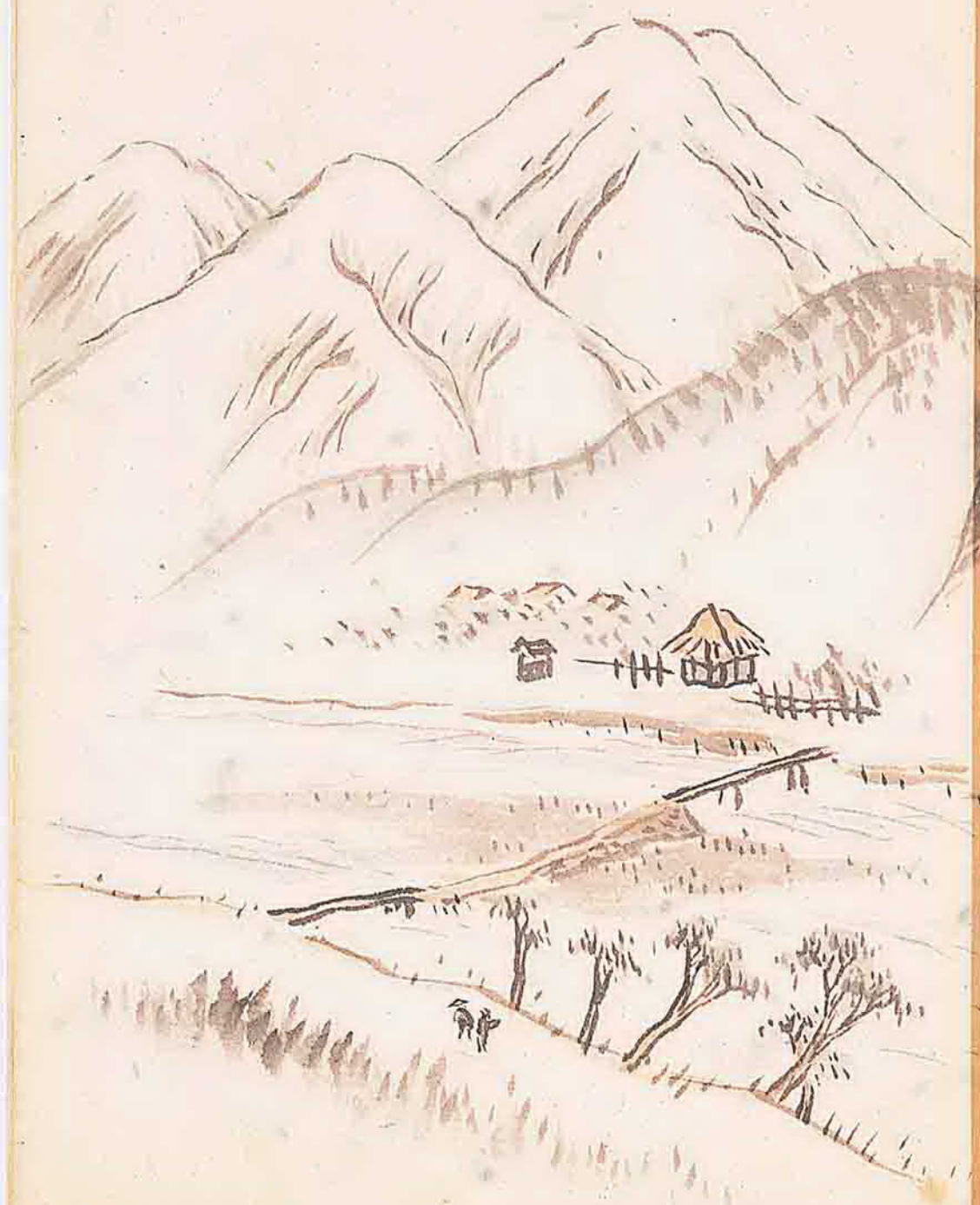


びつある家山よりて築けりとのやうに
 びつある一ツのやうなところを
 里山おまのいはれにありていかに
 腰戴し山より山にわたりていかに
 城墟に矢岸を築くこと山より山に
 なるやうに

矢岸

腰越村

笠山



かくて安戸の聖王の御像をわけて聖護院道見の山に
 ありて宗祇の御像をわけて聖護院道見の山に
 ありて宗祇の御像をわけて聖護院道見の山に
 ありて宗祇の御像をわけて聖護院道見の山に

うは とうとわらわ
 ちうとわらわ

ねおよね

うねやま

ね



安戸村野沢四郎公像

宗祇像

けり松山つゝおゆふのふもとに
 しるはまのふもとに



カニノクサ

竹澤村

新くして錦ノ入といふ村あり嵯羅門宮といふ社
ありこれに成教園防宇志と云へる所なりその名はあや
さとの社のことほむしといひなりその神祇をいふなり
銭形のある所ともゆふ山田氏のあり少人なりといふ
とねえなり新立京村といふし吉定寺といふ禅林あり
日本親氏の開基なり文禄二年とあるついでに鍾
と日下部忠清の吉定とあるといふたところの名はやつて大
きう一なり墓なるものありふありこの所より
あつて司馬と有るとありやと神形の城がうへより二
倍り土居をとりぬけりとして孰れ曲輪といふ所なり執務

の社をたてゝそのまゝに祀りて祭のふりやふり
 する所々細々とあるに林も竹もあふ北のつる冬荒
 たりたりとてきつとてそのひの塹のすゑにた
 らぬとて寄井の里のゆり田のともをたへけり
 夏山みどり布のつるやとるわたり本丸のゆり
 としふ所ふきりたてゝひとひりて無きものも
 ありてこの城のつる上杉氏の臣藤田清の佐
 邦房の侍に北条氏上杉氏ゆりてゝわたり
 ひくものありて國にたてはひりてゝ邦房時
 乃時ゆりてゝまゐりてゝ北条氏ゆりてゝ氏康の

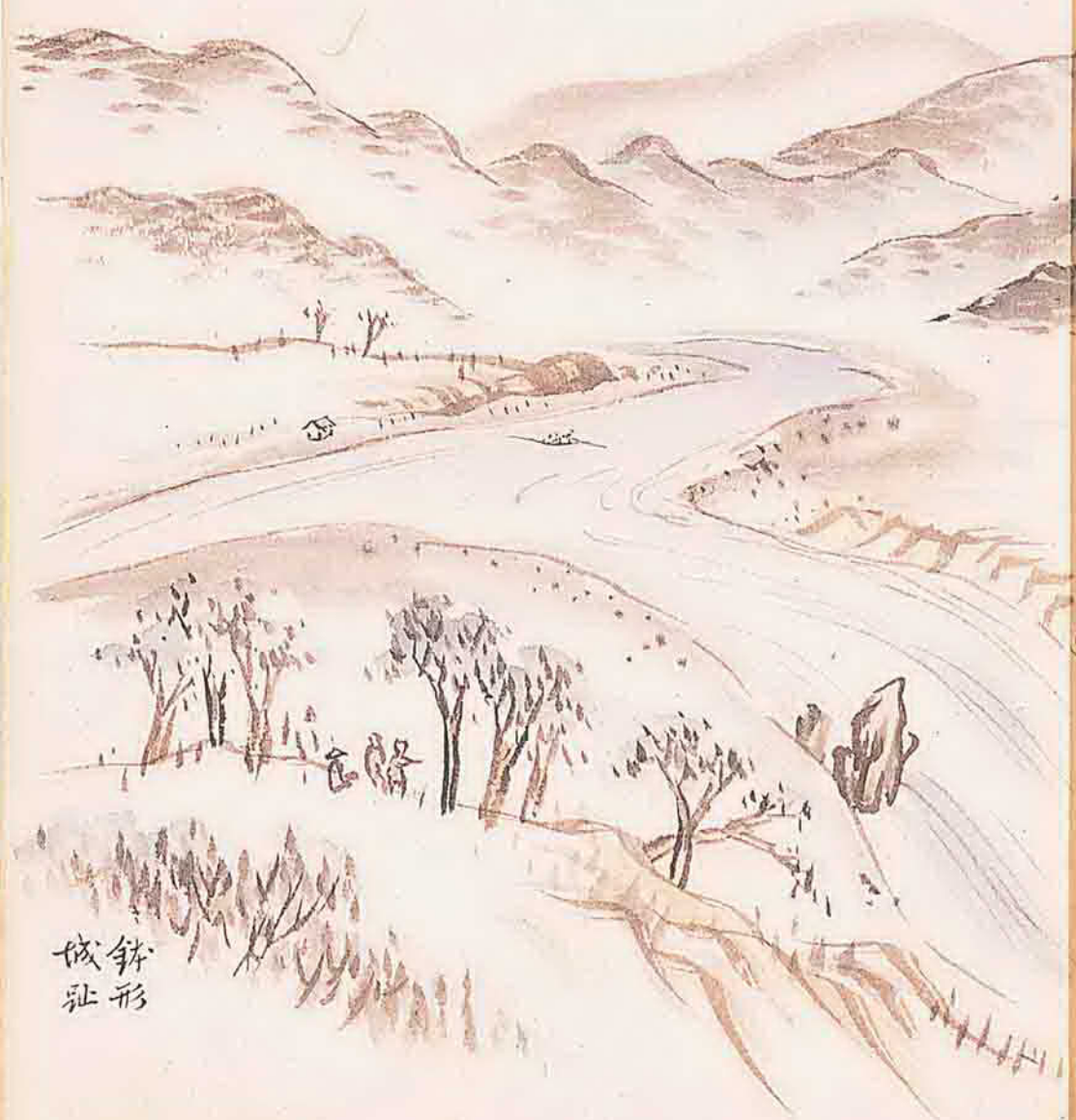
秩父新太郎は猶子とあるもののよもみあつて
てその方々は榛澤郡用土といふ所はいきなりと
周太郎新太郎の康邦とあるわけはあやういふを
いふとたまたまのやわいさうん新太郎とある
たまたまの酒のちと鴉毒はあやういふと
その中にもある2とあるとあるとあるとある
安房守民邦とあるとあるとあるとあるとある
いふとあるとあるとあるとあるとあるとある
たまたまのいふとあるとあるとあるとあると
いふとあるとあるとあるとあるとあるとある

いふとあるとあるとあるとあるとあるとある
いふとあるとあるとあるとあるとあるとある
いふとあるとあるとあるとあるとあるとある
いふとあるとあるとあるとあるとあるとある
いふとあるとあるとあるとあるとあるとある

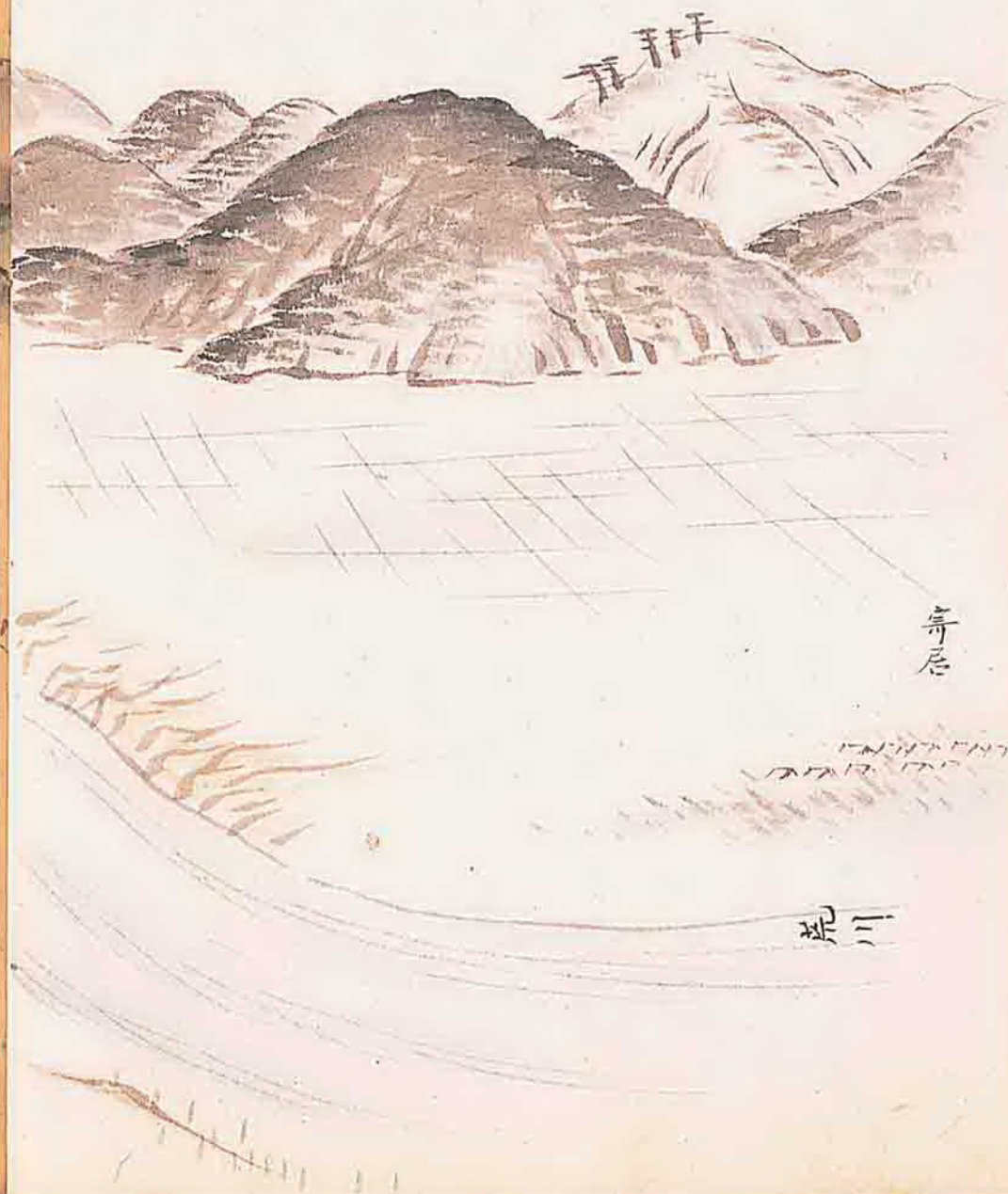
おのわたりとあるとあるとあるとあるとある

まのうとあるとあるとあるとあるとある

金伏峠



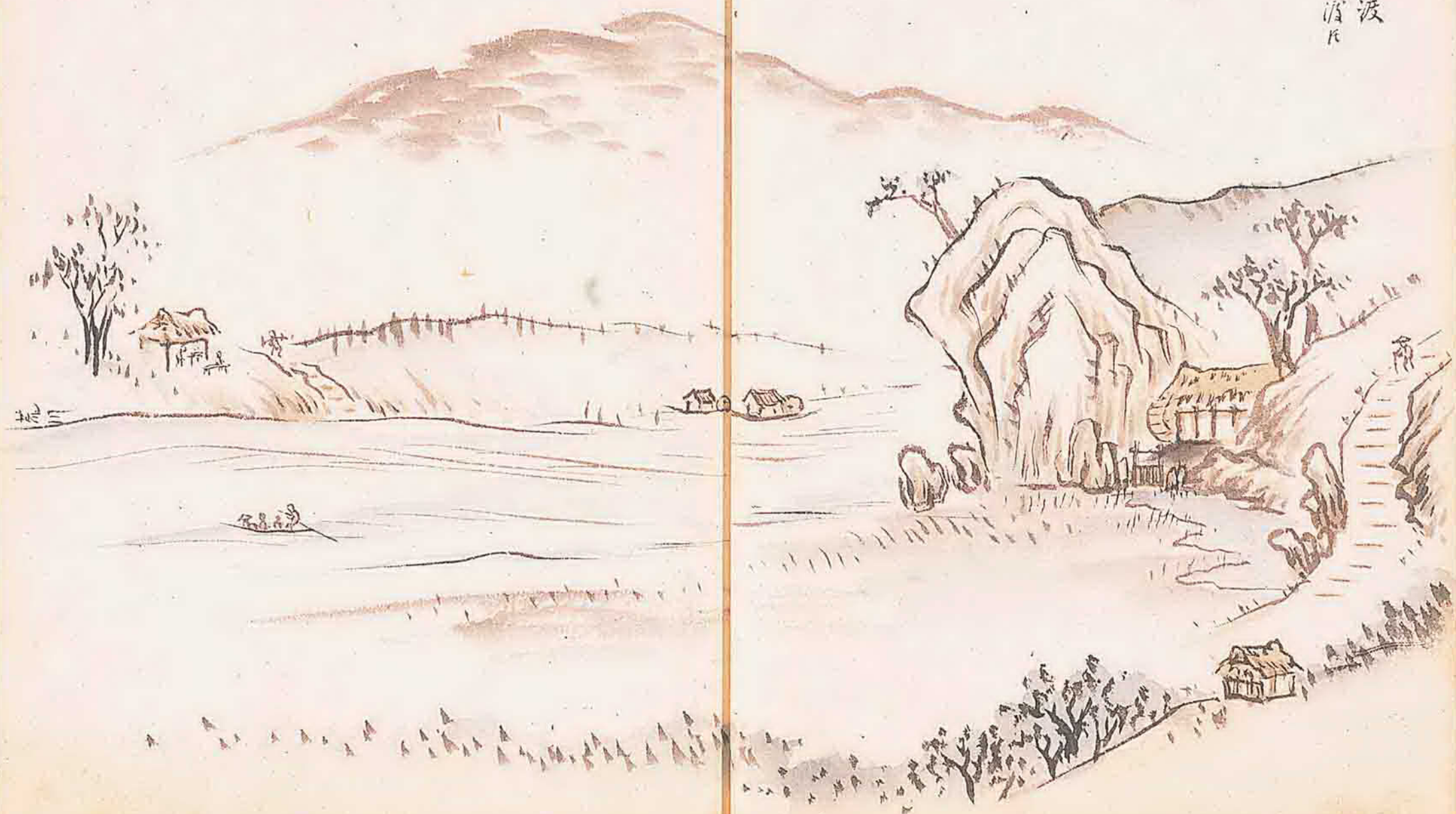
鉾形
城址



奇居

荒川

荒神渡
又トヒノ浦



かり神威のつるくふくむ荒川とくわ
 一宇井お里に於てかきとるなひひきこ
 一毎のふ日五日とわはちこの里人あつ
 するに金とくかきとるふたふとぬ
 一とふふあつひはりきとるおき
 一おきの中のおつとふとる事
 一とふあつひの中とるあつひ
 一おきとるあつひとるあつひ
 一おきとるあつひとるあつひ
 一おきとるあつひとるあつひ

[illegible]

かみいり時とくゆりし山門ふハ藤田禪林と
以て鶴をけりやとて宝物ふりて大
徳いりしゆりしとてまたふすはらの
えいそとたふりのむしゆりし棒をいり
ゆるは火のむしゆりしゆりしゆりの
まへよりし一本生けしゆりしゆりし
りゆりし

雪舟筆

寒山拾得

二幅

夢のむしゆりしゆりしゆりしゆりし

徽宗皇帝筆 鷹

夢のむし

東坡筆

竹

墨

いりゆりしゆりしゆりし

柳宗元筆

はみやの仙女まゐる仙女 二幅

雪舟筆

靈照女

めきんやとけんおとけい

牧溪筆

十三佛

北殿司筆

十六羅漢

えいりやゆりしゆりし

雪信筆

観音

夢のむし

風外筆

達摩

墨

ふしとほきよの人をもめぬいまふのゆゑに
又判事人へは唐物の香爐を〜そのり重
香合は紅葉が多のきふふは竹4席をゆり
氏邦のわけゝ大福の前につまよき〜む
ひ〜き大刀をさ〜刀を〜後通へる皆さへ
〜〜いふ〜ぬものたれ〜んわす〜
大福の前のおもひ〜とふすのち〜きけり〜
一〜ありやそ氏政より氏邦へ〜せ〜ふ
こいり氏邦よりふるふ〜お〜早〜ぬ
〜あるもの〜ゆ〜き〜ぬ

ふため〜〜す〜書〜い〜ら
う〜又書もよな筆のい〜ふ〜ぬ
は〜た〜い〜い〜
もの〜い〜金〜ぬ〜又感
い〜い〜のち〜と〜のふ〜
〜い〜はのぬ

十日、後を状、枝を河を
早達、能く交、之、中、故、之
後、控、取、臨、之、方、多、之、及
助、之、初、切、之、日、を、先、決、立
後、名、集、津、之、上、万、之、二、お

後、名、集、津、之、上、万、之、二、お

三月十六日、氏政判

新、金、石、版

昨日 龜凡 抄 乃
度 禱 柱 一 叩 此
レ 感 一 乃 如 乃 年
乃 安 一 乃 乃 契
村 一 乃 乃 乃 乃 乃

九 乃 乃 乃 乃 乃

乃 文 乃

物亦一松茸

結一尺中銘

今小從音抄

之化之或悟

少結

九一古出厚

丁亥
氏

今度松多
多升六分
新相熟延袖
走廻石車个
向後成孫个相

松多也仍糾

寅
七月十日三山

虎印

清久其子

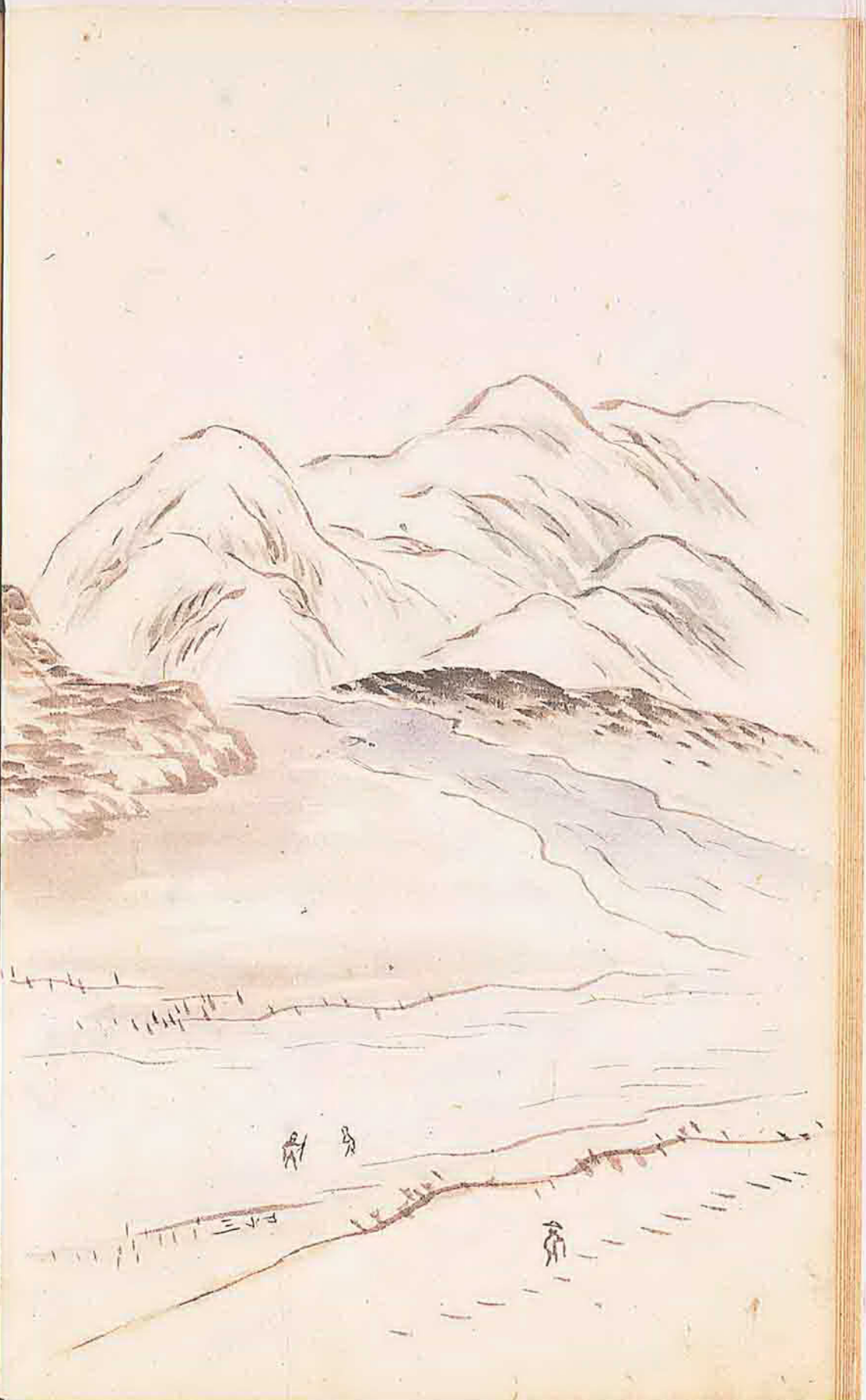
[illegible]

あつちつと色をおぬやも尾山城とおこひ
すうておさうつふ山世をううと七のうい
けいりのうちやうねんたうのうのうとこ
うめうと後とあうのうめうとわんとうと
中記のうも昔げまいのうちうとつふ
あうのうううとあうとあうとつふ
けるえとやあうのう記とあうのうへあう
ふ此寺のううと藤田氏のううとわんとう
新形のうをのううてかうとつふ
後あうと持佛堂のうやえとあうの

[illegible]



象力鼻



ちて寄居山の麓より山口氏のあつた家よ
 らういふく入酒をすめくそのあつた
 ちてこのあつたつたこの書とるつたつた
 一のくつたつたつた大なるあつたつた
 富田。甘糟シホリシ。四方田。用土。人見。岡部。五十名。立原。
 高見。ちてまゝ荒川のつた男。食郡。畠山村
 ち重忠は八幡山といふおあつたつた。船尾といふ
 山。山。山の池。あつたつたつた。つたつたつた
 ちちちちち道のいふつたつた。ちちちちちちちち
 つたつたつたつた。ちちちちちちちちちちちちちち

ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち
 舟といふつたつたつたつたつたつたつたつた

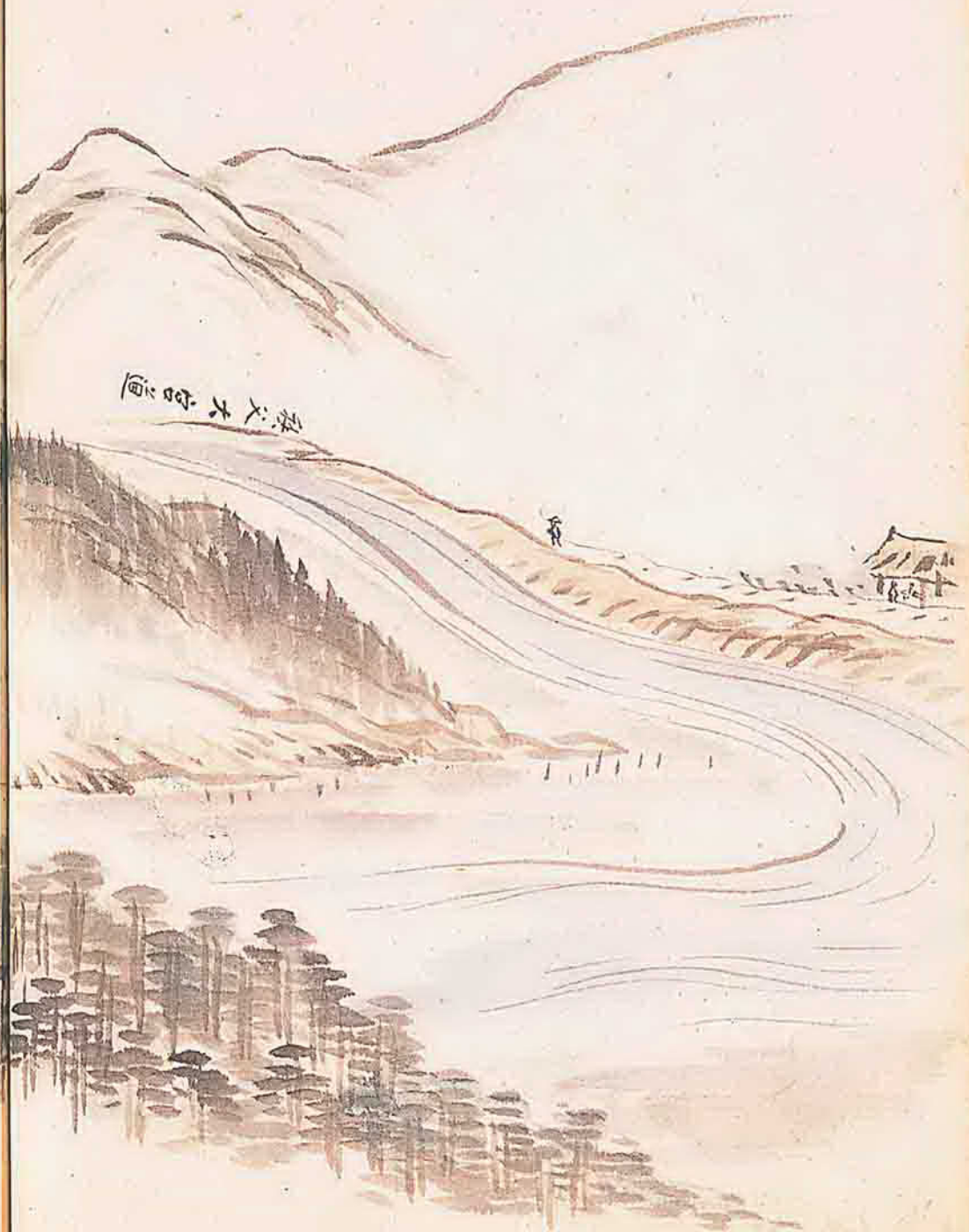
鈴形城址之四
 釜ヶ淵





山家
聖天

开



大宮道

大塚村穴八幡



木れと道とをきき山をいふと出で都幾川
はららとくさくさのやうは木のけつき山
あつては月の光とさかゝるはる

都幾川や美うはきゆといは入て由とて思ふ

いふとて思ふ

山口氏山帰りのきりいふの所はるるやうやう
十日雨やわは松岡氏とてあつてはる
このころは山をききとてさう

十一日雨やわは松岡氏とてあつてはる
の何とていふとていふとて

十二日雨やわは

山の中をきき山をいふと出で都幾川
はららとくさくさのやうは木のけつき山
あつては月の光とさかゝるはる

川入りて山のきき山をいふと出で都幾川
はららとくさくさのやうは木のけつき山
あつては月の光とさかゝるはる
二股尾村のきき山をいふと出で都幾川
はららとくさくさのやうは木のけつき山
あつては月の光とさかゝるはる

宿りりて山のきき山をいふと出で都幾川
はららとくさくさのやうは木のけつき山
あつては月の光とさかゝるはる
十二日雨やわは松岡氏とてあつてはる
このころは山をききとてさう
道はるるあつてはる

すれ入向川よりわたり〜や〜と〜坂4段なり
これより南畑村と云ふと云ふ〜と云ふは4段
大井の里より約て約りタれより西は東よりあるに
江戸より入ぬと云ふふよてけやむめと云ふは4段
り〜と云ふ

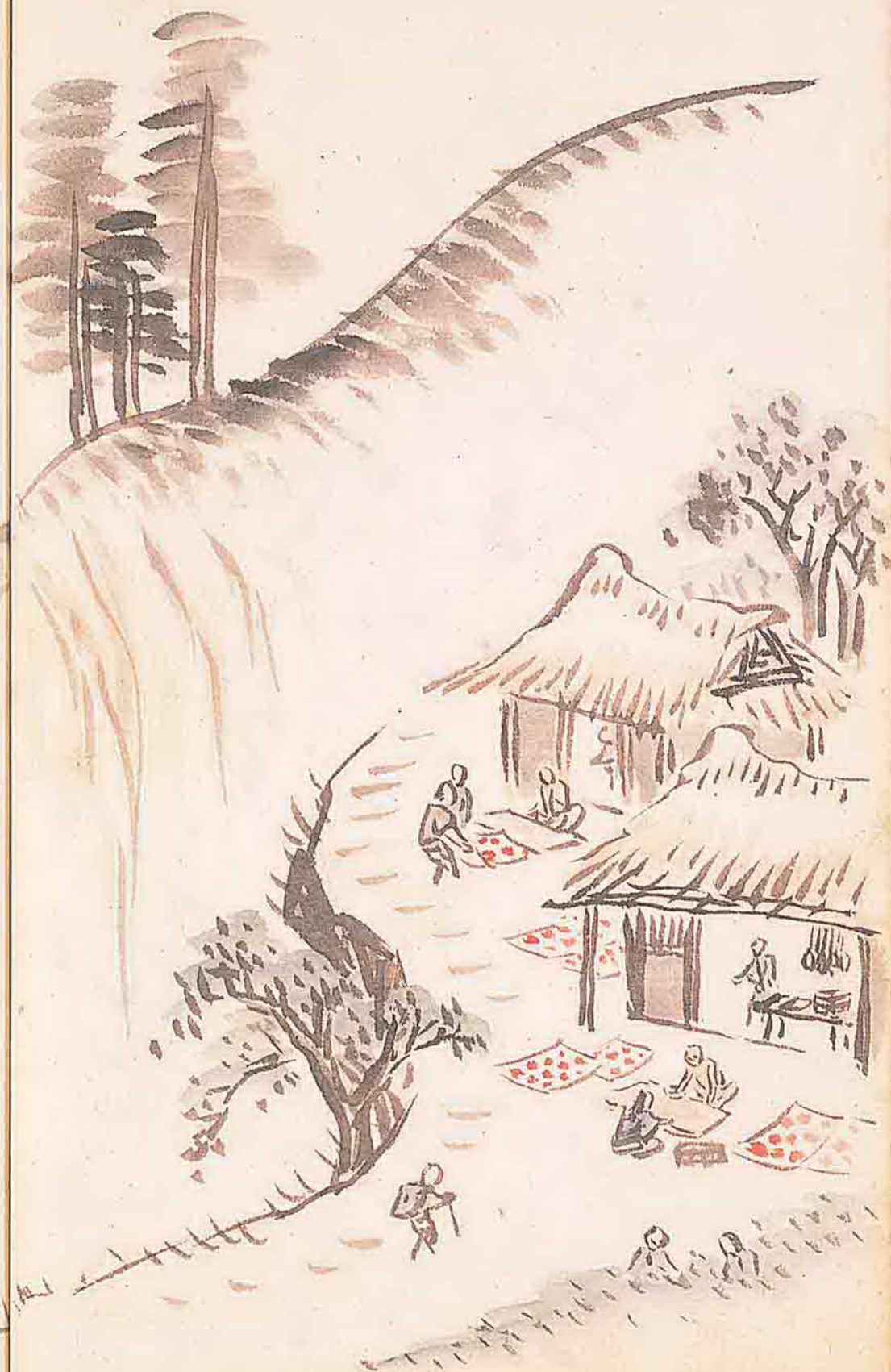
十四日これ龍村長勝院と云ふ田園雜記より
え〜大石信濃守の館の跡なり〜十玉院と
云ふ同也〜は道の程より〜に〜と云ふ
〜もたぬの〜と云ふ〜たつゆ〜崔同
と云ふ村と云ふは〜と云ふ細く作らるる〜と云ふ

の花はつ〜何と云ふ〜と云ふ
〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ
〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ

あつと云ふ〜と云ふ〜と云ふ
と云ふ〜と云ふ〜と云ふ



新平郡 官河村



ふのめらふの家々や紅花をてしけりばはつと
えいさきふじろといふれおまゝあふくおもひぬが
わらうもむなほそまつめと板の上と布沟き
そのへはみてもあぐへてまゝ布をきせ井の底に
てしわくきこまといひろをきだてやうてか
ゆめ日はけつたてそれと商人にうけてかわり
新とる整のきこる布はおのつてくれあふ深なる
そそくとつとき女もおーけとまゐるんぢんと長
勝院はあふりふるける寺にとおひきうわゆるは
法外といふのを鬼録をいふめふ今かく

あれをすくすくはりのもねたれいあつ大和田村
の光明寺を元おにねいあまのまひなりふこのり
うまはあむなりやれいつ人なほよと疑うた
かたのそとい堂のまへの楼の櫓の本なる臺
ありーのことゆふがゆふんとくわあひうやん
かいきてちりも堂たふしーのいニ堂よりそこ
はりーにほなら本像位牌をのちりするへと
けりさるは鍾いのありその津山武州新
倉郡館江元禄五年乙卯のころあるとい
もののうまは館江といふ一戸後よききうう

中とて是のまに破るる屏風ははるる反古は
 らぬ心の中秘密とて経文と和解するや
 る事とてわづの形とて書る物とて書とて
 くれぬとてとてわづは紙とて入とてぬとて
 つけとてふとてわづはとてとてとてとて
 とてとてとてとてとてとてとてとてとて
 とてとてとてとてとてとてとてとてとて
 江山分我州落雁叫霜風颭白沙翠竹
 斜陽幽々々々々々々々々々々々々々々々

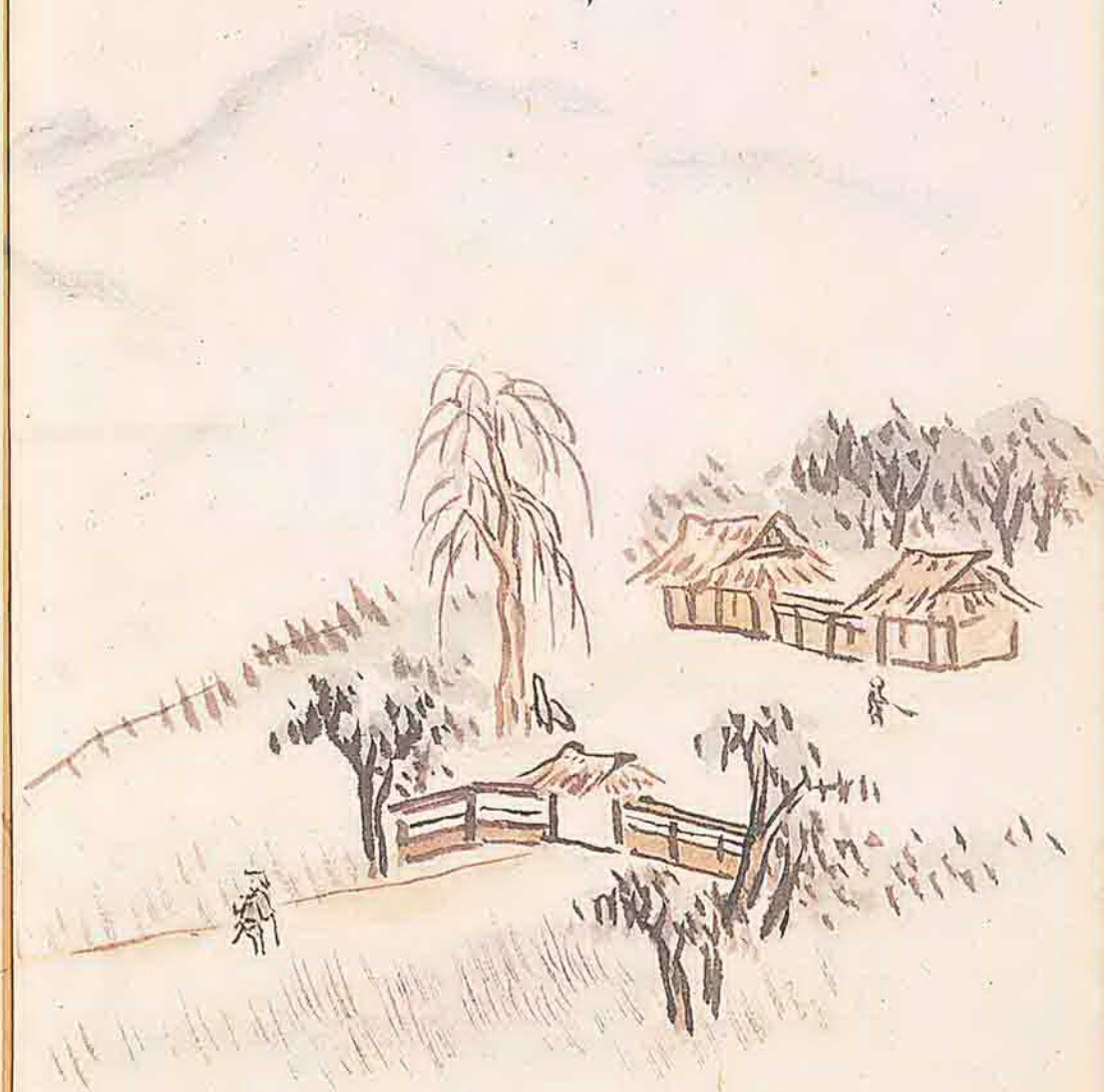
心齋

元弘三年
閏七月

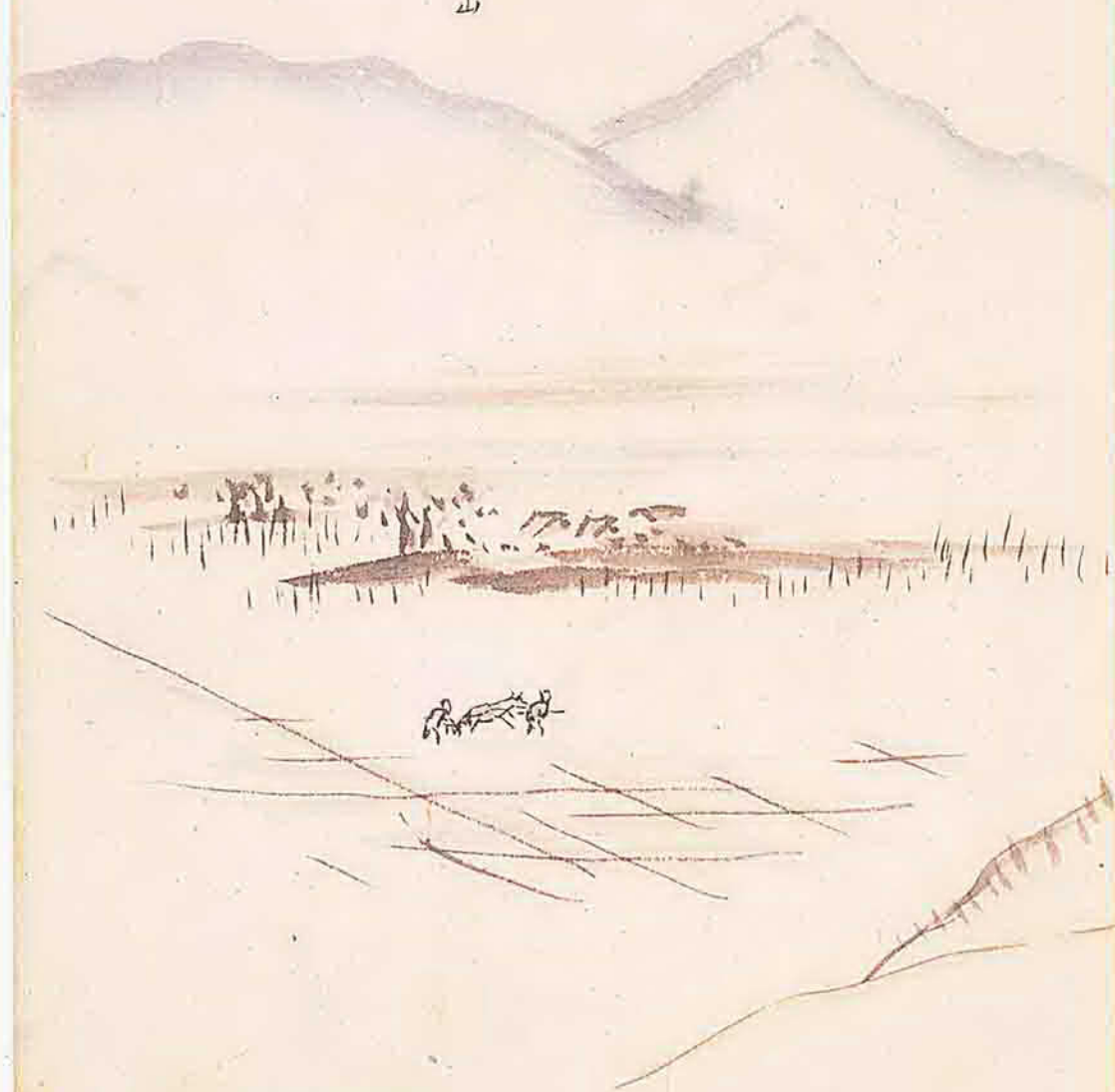
梵字二行

新堂村
長勝院

チン山



甲州ノ山



おれも又村より入るはとわるといふ入
り白子の里へとおひく新壁といふ村をきき大路に
つゝぬれ江戸より川越へいりて高田より入る白
子の外山よりいふななもやはまゝ入る橋のきき
あゝきおれとていふはこゝろあつたは
やも所よりいふ道のことなりとていふ
うゝとていふたひとていふとていふ
あつたのうゝとていふとていふ
いふとていふとていふとていふ

やもれん家のいふとていふとていふ
つきのれとていふとていふとていふ
おれいふとていふとていふとていふ
いふとていふとていふとていふ

37.6.14

